

普及現地情報



発信年月日：令和6年(2024年)6月12日
所属名：東近江農産普及課東部
番号：D24004
部門分類：355 (スマート農業)
発信者名：田中(豊)、次世代地域営農支援チーム、作物チーム

新しい水稲湛水直播技術『リゾケア®』とドローン播種を併用した技術を実証

東近江市八日市地域では令和7年度から約650haで国営ほ場整備事業が計画されており、ほ場整備事業完了後には1区画が1～2haの大区画ほ場となります。地域の主な担い手は集落営農法人であり、人材の確保と収益性の向上が課題となっている中で、より効率的な栽培体系の確立が求められています。そこで、水稲栽培において省力化が可能で取り組みやすい湛水直播技術の実証を兼ねた実演会を5月16日に開催し、集落営農法人や農家、関係機関・団体あわせて25名の参加がありました。

新たに開発された湛水直播技術は、酸素供給剤や農薬がコーティング処理された種子『リゾケア®』を購入でき、適切な田面の硬さの幅も広く、播種後の水管理も容易であるため、今までの湛水直播技術に比べ労力の分散が可能です。さらに、今回はドローンでの直播を併用し、さらなる省力化を検証することとしました。当日は風が強くドローン播種には不向きな天候でしたが、約30aの水田を約3分で播種することができました。

その後、5月31日に関係者で現場を確認したところ、苗立ちを確認することができました。

今回の実証ほでは、プラスチックレス肥料を用いた施肥体系が水稲の生育・品質に与える影響についても検証を行っています。効率的で環境にやさしく、収益力がある新しい水田農業の確立に向けて、関係機関が連携して技術の効果確認や課題の整理等を行いながら、技術の確立と普及拡大を目指していきます。



図1 ドローンによる播種の状況



図2 播種15日後の苗立ちの状況